

特別
~ 13
3179



へ13
3179

特

門へ13
渡 3179
登

表紙も年々筆く
 蓋を安作乃
 穴相似て歳々筆く
 極向新しかざれば一ツ
 ぐりとは松きくこある梅の

昭和九年
十月一日
印末

亭午之圖



倡門至日



附言

宋玉の好色賦と作らるる情を
 戒紫氏五十四帖の巻を述べて
 之欲を戒む是皆佛の譬喩方
 伎と云ふありしに子屢妄乃若
 述と云ふし淫蕩と云ふに似れ
 とも心そ戒を忘る守喜怒哀樂
 の人情を述る勸善懲惡乃

微意あり通く諭成るは幼童と雖
 戒るも錫も以て矢を以てさるるが
 則ち解を論すは好り出
 芥ハ仁義五常なり然ればは小冊
 教訓の二字と符一冊とを以て
 所以の成るは以てふ事とては
 視人宜家也

青樓畫之世界錦之裏

山東京傳戲作

五更鳥ガア〜〜〜
 晨鐘ボラウン〜〜〜

紙砧の音ユト〜〜〜
 商人の聲油あげ〜〜〜

夫神靈矢口渡道行の文句曰な〜〜〜

夜のぬねふし生も〜〜〜
 是も〜〜〜

乃常情成よく〜〜〜
 浦島が

珠匣硝子乃梳皿〜〜〜
 明もて〜〜〜

きさねぐりまき情あゆむ昔うら詩系連誅
 淨瑠璃小唄法依説法夜講釈川施餓
 鬼とたけまて廣松へ寄こし形死左仁日蓮
 記でうもれば探芝居をんさ事なき嬉ふ
 いさるゆを唐の和名ふ万人口のよくらう後
 いひはくしく今ゆらゆらも長藤な終ど死
 槍家と娼家あはるすといふもの世々心中よ
 絶てしなくもまこころのなを

吉田屋

吉田

吉田屋

吉田屋

吉田屋

吉田屋

爰昔後一条御宇撰州河邊郡神崎
 之廓吉田屋喜左衛門云有妓家
 そ被が二階乃朔糸色杯盤狼籍廊下
 入盤盃小杯共茶室のう小茶碗を
 の中あさと居合れれ踏巻乃ごく傍火
 輪切乳椀の皮乃りふ杉箸の折ふ
 月小震はとをどんとくいのからます有
 糸くどん物日る浴室れろ方乃ごく

けりてまた **車** そんちちとまつて
 らせ入ナコレんよとておつりゆの風乃
 名くいゆりぬる **女** 海ごごりカチ
 上ケましやう **車** そんちち **女** 狐あうら
 おく来てんぞ入 **後** 生こヨ **扱** 下わん地代うた
あて吉田屋と筆ぶとれそあゆいゆのうらんとん
 ぶんまは上ケてあてこらうた牛 **基** まんがゆらうら
 さうにこい狐うけまんくのほうづいどわら何そびあ
 ながうきとゆりくわつてわらわらとそがぢらのかまを
 男のこいゆい **か** けい **吉** 平 **こ** 志つとて居ぬら
 がゆなり

もあゆやうにさくゆのいれん **か** ぢら
 吉平ぶんかきうハモウ **奴** 橋田いよと **計**
 うらにいつゆらせ入おん **ん** ざうい
 つて **今** **か** ぢら **何** のは **だ** ち **扱** ぎ **よ** **今** **か** ぢら
 あつゆい **何** き **さ** ぬ **か** り **の** **扱** 続 **が** 先
 一本 **か** ぢら **い** 子 **ぞ** せい **う** **ア** ち **う** **久** **朝**
 く **い** **が** **こ** **中** **ら** **ら** **と** **ま** **つ** **ふ** **一** **編** **へ**
又こらうれをいふ乃ちあくうらう出入のこらあを
 だん狐扱こりいぶそはあうらあうらと書乃 **文** **女**

かつらんさん死ななく居る志でござうて番の源七もあ
 たらあざうらひまゝよりこれあてゑも其なちきせれの
 まれでござうさうみや コリヤ おめんさんつ婦でござ
 うと海と生妻でびくつらやアこんかまば
 ちんさんせん表文助とめめごかいそれ
 での女女いい生貝へんか女貝とうこい
 つアつ地解どうまいつ魚とござりゆと
 源だんまさん生海鼠もらんとおくんな
 さりゆい海氣の校堂でてござり
そのまじり

めい

中の文車ともらんと入らんせん我あせ
 魚がありらんとそれをいはすのイノウさらか
 志けのいげとござりゆとござり
 ざりもせんの四時二の夜まのがないんだま
川竹の中がこ小りんのちちまごんの
小神次きまごんは平がけらちり乃あつ伎のやう
のまつもととしきとつと小神とうちけあままごんを
おさてとみまごんをあけとはいまごんといふこといふこ
まごんのくとちとおとあつまらそうまごんといふこ
はこの二の乃の形をうがららんといふこといふこと
のりまごんのあらんもらんの骸骨のまごんといふこ
のりまごんのあらんもらんの骸骨のまごんといふこ

れはと後ふろくちりか全にふりあひのふとん

そ終りうアは海わくそれをまきりくーん
し人者のやねうからまてゆゑんぬのり
あもびやそーてううアひりぐへいりてま
はぬさうとこまやまぐーやヨららぶあねを
まらねくヨあううんがあんまを親娘をく
さうーやうううんむらうくたなるのんトや
ア秘入ひひまてゆへゆくゆくとれはどのあ
たさりのそのあしん小まの屋あははうんぎとこ
かき一高ぬうさふかけくまのりざーたとのそたて

小るお

わさまはうてかきけのあうんへひは赤を

ろんど扱をやーとごんご甲がいつり
まさくさまなまはれす赤んうー^父と目か
ホニあうとアいつくは死ぬほほどりいが今
からうとお終ぐそまけんせんううあしとま
うれまふわううおしお出形んー^{小島}アイ
た扱たうりのうの件あう多しはあ
のうてありはーかうおあさんのみふい

ねとおろしからうちやうの方お志のどととらちうつら
 されとやましくよらちほひタツヤぶととを
 志んしやうト川ゆくろくが世らうねく
 ぐん子うれぞんし小あやとくよ折しや
取あくニらルより あで海 モレへ竹櫛をほつてきて
へや持の中あり おくんらんしなぶとておくおのんやいとも
小あや かしとほりまうしトいふらゆふらおとこ
死がれところの
なりあままこ ありん珠ゆ拾ひの海はほめて死んせん

久小あや あままでたゆと紋い和とと
 ひうぶらげね志んことさまぶらふきておん
 かんしなる廉くハトとらいのたのころん
小あや ちらんと浮う里さんのあいのびらぬ
志ん浮らんのさいふたらう居つけがあるよ
小あや ホトあくの方ゆくの因がざいれまいけららり
ほけ茶まんとる中大歌大作はりし志んのゆい
チシトウクをばい湖凡集のからうく茶をのをを
とれとところの引出し門
ゆいのやねとが

かつらうぢらうめりんご^びえんおさう^ち
 ーらうけ^半人乃^き氣も志^くれんご
 志^ち中^ちあるよなんが志^ち中^ち往^てても中^ちさや
 き^きど^ど乃^乃道^ちあ^あの^の兒^のもの^のと^とさ^さら^られ^れれ^れ
 があ^あわけ^け紙^しー^てや^やら^らう^うの^の宗^{しゆ}^びげ^ま
 き^きの^のら^らを^をび^びと^と志^しら^らむ^むー^らの^の半^半何^何
 ひ^ひー^らの^の海^うむ^むの^のむ^むー^らが^がま^まて^てあ^あれ^れ
 む^むら^らア^ア ^びま^まら^らイ^イ酒^{さけ}ど^どよ^よら^らう^う ^び供^{きやう}納^{なつ}屋^や

へ^への^ので^で寝^ねま^まら^らせ^せん^ん ^び琴^{きん}び^び門^{もん}さん^{さん}さ^さう^うじ
 紙^{かみ}と^との^のら^らう^うと^とま^まて^てらん^ん取^とり^りて^てた^たん^ん紙^しの^の
 ち^ちの^のの^のそ^そち^ちの^のと^と磨^こて^てらん^んかん^ん ^半ホ^ホシ^シニ
 ち^ちの^のと^とさ^さら^らる^るを^をせん^ん賣^{ばい}茶^て店^{てん}と^と女^{にょ}帝^{てい}院^{いん}
 志^しん^んさ^さう^うま^まの^の茶^{ちや}箱^{はこ}が^がま^まら^らし^し ^半秘^ひ人^{にん}と^と志^しん^んさ^さう^う
 ち^ちや^やア^ア ^半ま^まら^らイ^イ ^半さ^さら^らう^うの^のち^ちら^らい^い ^半女^{にょ}の^の上^{うへ}
 半^半紙^し ^半ア^ア ^半さ^さら^らう^う ^半ま^まら^らし^し ^半甲^{けつ} ^半ま^まら^らへ^へら^らく

のが何れもよくあつてせそくを之治丹坊の
 二百九十九丸にてゆひて入用大くたれを
 之のほしやうが堅くあちや粉帯さん乃
 とけ人淋病の薬成をせてやりてふけい
 ぼふあひせんアヒンの二つをてよくせりイロ製不すりまへどと
アヒン予さあつらんよりけ秘法成傳の○黄蓮ワウレン甘草カンサウ丁子テイジ
アヒン山梔子サンシ隈篠クマサ燈心トウシン梅干メイカン黒焼クワク阿膠アコ松マツ
アヒン子シ女陰毛ニョウイン黒クワク以上十味等分二合煎用ユ
アヒン

新書七

三三トどけが 琴をさるやアそりそりあつらふ
 死つらそおさんアヒンアもえりイ志アヒン
アヒンおろりまゝのよひアヒン▲さんアヒンさんアヒンさんアヒン
アヒンきんアヒンあやアヒンけり▲鏡アヒン磨く▲アアヒンくアヒンくアヒン
アヒン▲針アヒンがアヒンぬアヒンく▲モアヒンへアヒンあアヒンをアヒンをアヒンりアヒンぐアヒン糸アヒンくアヒンくアヒン
アヒンしアヒンらアヒンしアヒン十二日でおさんアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒン
アヒンきアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒン
アヒンアアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒンしアヒンらアヒン

ふるも志をの方へゆきしはゆるゆそふあつとぞとぞかん致とら
てありてのきんしへうらしてこきくゆりそあ志こよりり

申即 味たの手もて申しを世うんけ紙ららと

おのれあすつてむさりはトらんけ 琴トらんけ へん

わごやのござよ申一トきでなかりおのれあすこ

アまきり琴 今とこしてあうトらんけ 申展

びび川さんらち世屋敷ふ皿が一ツあす

おろやしやうまからんせくび おさりのいせん

申展 おろかといわようそんる幸なひらさる

けらうもろらう平おあさごぞりのやーこら

こーらがわづりざごううくならちやア

やうとぞぞりやとこだ 席トらんけ じトらんけ びトらんけ びトらんけ びトらんけ びトらんけ

志んる志う秘へとこぞうう紙折ふらんけ 志んる志う

らんけ 志んる志うらんけ 志んる志うらんけ 志んる志うらんけ 志んる志う

こわの何れんぞやへうくまごろ香箱との

下モの本茶末へつて血とあきん 根筋あへて

きやとてかへりにお針らんけ やで糸らんけ をちらと

ゆめしきの筆はわげのんあぬ乃丸ひつまたのよりいと
めてねひむくいせんとこのどうにへういといひつら乃むら
八丈よおちどゆらぬつら糸よとよがねひこびちやさんよふ
ひらうりんのうらとつけしとねたよもち上見よむつて
忍ゆんとあやしとねんせんか
判人よもそもきふかといふおんた
浮屋さんのあよ居はけがわさやアねん
おざりいとヨタおあふさふいやくんそあか人乃
あやん子とそとかしくてうら一ぬつけく
おらんさんしとてみるモハおのんヤん
少人四きづうひなさうりいとあタひらうらばく
あ

のきせ

てうしとあつてあタハちあらんてん
このもいさわいでいんか中のあ
かん板と平膝うらしてぬのかんたん板といわを
あ希のうらととねかりふりてとねりれのことまり
三才のヤハ三才二才ハ二才
おとあひらんかあいの
あゆまきだんさんゆいあわらごふに
ざりいと表とねたきふうのてあ
とけあ何う店のあやん出番タ
屋乃きやくんでおざりいと表ッ
とうらうらむんあかあかてふあ

亭き

のそふ

おと

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

風が人ぐうぐうと音る。きく客人がまじく
みちうみくしきれ。夕つてはゆつりいしやうと
あんとはなして。女房も頃見ひれが
ちやんゆく。女房も頃見ひれが
でふつらう。女房も頃見ひれが
まは。女房も頃見ひれが
のまは。女房も頃見ひれが
ふりそを。女房も頃見ひれが
ふらわり。女房も頃見ひれが
酒どう乃。女房も頃見ひれが
なま湯。女房も頃見ひれが

男の酒好。三河嶋の湯。お出なごう。女房
るウ。女房も頃見ひれが
あひ。女房も頃見ひれが
白鞘。女房も頃見ひれが
どらうね。女房も頃見ひれが
ア。女房も頃見ひれが
おや。女房も頃見ひれが
い。女房も頃見ひれが

ワてくくがくようにならうひんじとト人
戸柳かぐおた一色男とわさうりく志るまを
フひとわをそひやうぶの中へる〇をもちくびり
男とつをふら屋の神よりむきと修たちとあゆみの
[女ま]とあひひのそれがさうとてぶゆびとあり
かんごゆいとちうれをこのてりいあうる店に
がらまけあそかくまひとれいがゆいんあはうる
二う上を中ぶるえうせしおむく出そびれて
一日志のなをせれさうあり修たちびやうぬのうらへん
いひひしあでのうさびつしあり
あてびつらうせもまねおま守持人定 [夕] 小ごま さごぞ
たふくろ志あんしそあさりイイかうワ
くしが自れにしそ同ふたらんささ

いひ付ていおきんしそあさりイイかうワ
せろんごう [修] イヤ川にけがかりくゝ氣
はあまぐんまさうらひのどくあうり
それふ小便もまきとまき楽て採(痛
團の線とむ志んく入音のせねきうみ
しそあまくれさうら何れそま
とこまなる [夕] 小ごま おまさん
とこまのふらうらひあめしそまさん

くごごごでおんとかんめんしておらん
 さんしん（たぶらに付るきりぐと）作（ぐち）悪懲（ち）れ
 して後いふものごとあま秘く世の中れ女
 郎買金の汲ふあれうらハ女郎（ま）其
 実ハあつらふおころういふ身よらんこ雨張
 見はるぐくまらるまらしくせんをてふト（は）
 中の（ハッ時）ハッ時（かたやゆきをゆく中あま流の）
 なる（かてけのまがきんひく二るが）
 づうふるるの（おろくけとるうき）伊まが次の（ち）あ
 新造（四かま）あふ（ま）まが（あ）あ（あ）あ（あ）あ（あ）
 夕（あ）その

かじり

公のさふもととせんかたさくくががひ
 人同があつらふ人さふ笑ひ（わ）おもてわん
 せがおまさん（ま）事（ま）おひひ出らんまをいそ
 死（ま）く（ま）い（ま）と（ま）隣（ま）多（ま）二條院（ま）ころあを
 わうでう紀世ふあう人た（ま）慈（ま）一（ま）のうまき
 夜半（ま）れ月（ま）う（ま）子（ま）ラット（ま）ころおざり（ま）いと
 三（ま）とち（ま）さ（ま）お（ま）中（ま）う（ま）お（ま）せん（ま）さん（ま）人（ま）和泉（ま）
 式（ま）お（ま）あ（ま）う（ま）ざ（ま）う（ま）人（ま）世（ま）世（ま）ふ（ま）外（ま）乃（ま）と（ま）ひ（ま）で（ま）ふ

伴今一たび勅^{えん}事の^しもす^はけ^二ふ
 こと終^まり^しま^りて^は中^のよ^のり^を
 の^のど^や夕^{ホシ}ま^るん^わん^し耐^り
 ち^くし^んき^うお^のひ^ひあ^らけ^でら^い
 け^ちし^らん^れの^事さ^んの^むづ^み
 し^やお^んん^ん伴^さう^のう^と
 う^一世^がう^今い^慈一^き言^こう^と
 ら^にお^おり^いこ^よそ^ふわ^から^さ

ておらんなんー^{藤原義孝君}
 う^一か^うさ^うう^一命^はし^ん夕^おの^ひら^に
 う^一う^うう^うふ^お目^ふか^らし^とと^とと^とと^と
 う^一ふ^たが^しん^とお^んん^と伴^{ハテ}志^{んで}死^す
 う^一ま^が夕^嘆も^志ん^とあ^ん伴^命あ^らう^のお
 ぶ^ねサ^カな^がく^とう^那と^志ひ^を死^せれ
 多^クゆ^んが^らに^一う^んと^う夕^とふ^とひ
 う^一ら^まご^と九^とぐ^八年^との^うね^んな^れバ^一

いろふえーあめのとあらまはる[タ]のそれと
 ふびょうとと[マ] [多] 右近[うこん]のころ
 とむねのりどちうてー [タ] それとよ
 ことんふちうくくちえと [倭] 今とく人冊
 うんどのちうに [東] 牙とほくしてもあらん
 とくちうの [タ] ころやほんでおらんさうえ [倭]
 こころさうんが [多] たうーのさぬのあさかき
 [多] のちーや神のね神もこそすれ [タ] の

かき

とちう一かりまはるくちうとらのおうけ
 こころあさかきをちうけを [ひやうぶ] 風川のけ
 頃 [このころ] 月うららやーのちうけーさかき
 ちうと見ゆもてとくく [と] 棚のうら
 こぼけの [多] 新と氣あつけがわんまはる
 とけ [多] ちうとちうとちうとちうとちうと
 なんで役 [ア] 役がさうあのを冊とら肉澄
 へゆんさんふちうとこれけらや

は男ぢ奴引どと出さぶよふまの
まりこと関つあまふ者け種も
かけまるとはぎらるこぶーの雨あつ種
ひざんやか伴なまが何まよのよふあ
うれ夕暮ゆふぐりなまごもあまの中とまごそ
くまと押まは伴なまが何まよのよふあ
是やひざんやか伴なまが何まよのよふあ
志中んお伴なまが何まよのよふあ

あまの

えんとぬらなまが何まよのよふあ
あらららららららららららららららら
是こらららららららららららららららら
その箱たこふまが何まよのよふあ
てとととととととととととととととと
代物あまはけららららららららららら
とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
さけらららららららららららららららら

かけられた次のりきんも持のうらうらと
 ヤア／＼夕暮どの女屋をさ
 と十段目の大星りどねふ
 ありとけあそと一いけ
 ねるとあそり一人の男
 着ぬののききうぞつん
 で袖のり上チ今一人とぶらさう
 となす／＼さうもけのあらうもたれ



一
 一
 一

けりくくとひら／＼してとささる／＼
 よく／＼とささる／＼
 さう／＼もヤア／＼あち
 さんへ浮里さんのお
 客人のりるふさ
 し／＼ア／＼を中ゆと
 つ／＼あ／＼とささる／＼とい
 男侍たふがまふふふ／＼




新^{しん}とびおしありのたゆふ志んぬ思は
 ぬしやうがけさくしやん京^{きやう}都乃物^{ぶつ}店^{てん}ぬ
 居^いる番^{ばん}以^い成^{せい}伝^{でん}る集^{しゆ}らんしやのめど
 ござりほすけな用^{よう}中^{ちゆう}あつて世^よ代^{だい}へ
 出^い大^{だい}且^じ那^なぬおあふくとうちあまのいあ
 かなうぬいぬんどうとの事^{こと}これいさう
 おうふ事^{こと}あまこびつらん乃^のぬわやまら
 志^しこつれしぬ心^{こころ}座^ざもなとくしやうばいぬ
 ぬ

毒^{どく}の扱^{あつか}びも中^{ちゆう}二^につぬ是^{こゝ}なる夕^{ゆふ}務^む屋^や
 小^こさやどまてぬ執^{しやく}心^{しん}あつてと^と是^{こゝ}赤^{せき}徳^{とく}
 乃^のむとぬしやうんぬんぬにぬれぬ遊^{あそ}
 女^{むすめ}とくもくしやうかぬほじききりぬぬ
 志^しこつれぬぬらりしやうとぬしやうぬ
 一^{いっ}目^{もく}物^{ぶつ}夜^や殺^{ころ}言^{げん}さや中^{ちゆう}二^につぬ扱^{あつか}すぬあ
 月^{つき}とぬ階^{かゝり}さぬの浮^{うき}里^りが客^{きやく}とぬらり律^{りつ}
 義^ぎといふく名^なとぬ入^{いれ}にぬがけもまふ
 志^し

とたゞゆんと今日ワごとおはせもどし先
何と茶室よ中しあてあて人臣しておふわく
なして人るぬおとさるふよ是るる長
み才と志のび屋風乃うらのむらまゝいと
ときとさげたきりごのたまとねをさぬ
つこうへ今日中ふてのままま苗屋にたふ
さるひあうけれ境成わけアさんまを
全へ別るふとく日中よりさぬぬり出

あまのこ

伴たあつがふふとさるうもたて中とこれ
む信る材布は二ふより是へ後のおふ
なけ耳成そる人へみ百ぬ合もそ人うた
つをわりのほとと印しきこれ何く
候知をふあまのいさうきえゆる今日より
勤まぬゆりゆりのありとまへはたしに
親のまぬアかたけはありがうと伴
たろつたまのまもせうこのふもあわて

せきくふしおぐむ中ちゆうのる乃の  七しち時じ前ぜん
路日ろひ将斜しやうせ

是こゝ上かみ錦にしきの表おもてとつんとつんど夜よるの景けい
色しき乃のをれやん今いままをまを多たくくわを
来きりの小冊せうさくででああららううどどら

初はつき世よ三さん

後叙



夫それ熟じゆく大おほ門かど視みバ。實じつク

兎う貫くわんが旬しゆん乃の如ごとく。骸がい骨こつ

死しううて我われ粉こなふふここも。道みちに

郭かくの喜き怒ど哀あい樂らく迷まよふ

眼けん中ちゆう西せい施しと出いし。
悟ごを鼻び中ちゆう一いつ鼻び氣き成せい
心しん及およ迷ま了りょうも悟ご深しんも。
有う漏ろう路ぢより。無む漏ろう路ぢ
送そうる。茶ちや屋や一いつの提てい燈とう。

人じん間かんより。ナツレ五十
間かん道だう一いつ切せつ乃の急きふ生せい才さい
乃の用よう心しんさる。い
ましや。

旨寛政三年辛亥

春正月

京傳自跋



二

晒落本類目錄

江戸通油町耕書堂
萬屋重三郎板

傾城買四十八手

東京傳作 全壹冊
きくくと女帯れこんたんとり
くまのく曲わさきじなり

小紋雅話

同作 全一冊
あせあききこくかえちて小
あせあききこくかえちて小

新造圖彙

同作 全一冊
きんりうづいふあひてあせ乃
きんりうづいふあひてあせ乃

通言總籙

同作 全一冊
あせあききこくかえちて小
あせあききこくかえちて小

百人一首
馬麻溝秋
初衣抄

同作 全一冊
百人一首たふふ鄙俗のてんた
百人一首たふふ鄙俗のてんた

傾城鑄

同作 全一冊
あせあききこくかえちて小
あせあききこくかえちて小

右原揚枝

同作
全一冊

けいせいの實の極ひせんきやと
女帝のそらえん志子

客衆所照子

同作
全一冊

おんんか新造亮の風俗を
察するひんきやねん志子

小紋新法

同作
全一冊

世よふ河ゆきき物成るん
おろりそれくふ志子

三教色

唐本泰和作
全一冊

神佛傳のようけいひん
とげつひれ格あし志子

和唐珍解

同作
全一冊

長き女の帝実のこんし
長き志子

娼妃地理記

喜三二作
全一冊

右原ふ丁町風万国ふ志子の
右原ふ志子

柳巷化言

同作
全一冊

けいせいのあけけり志子
なる志子

氣のふり

同作
全一冊

けいせいのあけけり志子
なる志子

野夫燈

全一冊

かぶいーやけやんしん志子の
長き志子

奥腹筋三略卷

全一冊

右原ふ志子の
あふ志子

曾我糠袋

全一冊

けいせいのあけけり志子の
長き志子

手管智恵燈

全一冊

女帝のそらえん志子の
あふ志子

泮都酒美撰

全一冊

けいせいのあけけり志子の
あふ志子

彙軌本記

全一冊

けいせいのあけけり志子の
あふ志子

山東京傳戯作

寔野

四十八巻後編

全一冊

初編ふ志子の
あふ志子

辰記仕懸文庫

全一冊

ふら川の由世入らむ
とらぬあそびとらぬ

傾城賞早学問

全一冊

よらけの極秘
とらぬ

信物娼妓繪籠

全一冊

まき標あつてきりや白
のあそび果をたらぬ

地者八景

全一冊

地さのちやま八公に
たらぬ

總節優細見記

全一冊

吉原細見小芝居役者の
果とらぬ

雑談紙屑籠

全一冊

これとらぬとらぬ
人の情小あつて果とらぬ

江戸通油町
書林
葛屋重三郎
江戸通油町
書林
葛屋重三郎
江戸通油町
書林
葛屋重三郎

江戸通油町

書林

葛屋重三郎



10
10

